

第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会（第24期・第3回）

議事録

日時：令和元年 11 月 22 日（金）10：00～12：00

場所：日本学術会議 5 階 5－C（2）会議室

出席者：大倉典子、加藤昌子、嘉門雅史、野尻美保子、藤井良一、須山章子、谷口倫一郎*、中川聡子、森下信、浅見真理（*印は遠隔参加）

欠席者：森田康夫、渡辺美代子

（敬称略）

議題：

1. 前回の議事録確認

2. 委員報告

1) 嘉門委員報告

・世界経済フォーラム、世界銀行の報告など2018年、2019年の報告等を元にした世界的なジェンダーバランスの状況では日本は政治分野で後れを取っている。内閣府男女共同参画局の活動では理工チャレンジ（リコチャレ）などで女子中高生・女子学生の進路選択を応援する取り組みが行われている。

・AI分野などで男女間のギャップが大きい

・高専では女子学生比率30%以上、管理職10%以上を掲げ取り組んでおり、高等教育の一環として理工系を選択した女性が増えてきている

・土木・建築関係では、意思決定の場に女性を必ず含めることが重要視されており、「もっと女性が活躍できる建設業行動計画（10のポイント）」を設け、女性技術者・技能者の5年以内の倍増を目指している。（一社）日本建設業連合会けんせつ小町部会、（一社）土木技術者女性の会などが積極的に取り組んでいる。

・DIE（ダイバーシティ・インクルーシブ・エクイティー＝多様性・包摂・平等）の重要性。

・ジェンダー課題解消には長い時間がかかるかもしれないが、未来の産業におけるダイバーシティ方策も視野に入れた活動が求められており、時代が変わったことに人々が気づくことが大切である。

2) 浅見委員報告

- ・内閣府の各取り組みやリコチャレなどにおいて学生、大学、学協会などで多くの取り組みがなされているが、小学生低学年や母親、就職時の選択などに関連する取り組みも重要であり、その層が自然に情報に接することができる機会の創出が重要である。

- ・特に理工系に関連した仕事は、専門性を活かせる職種に就職しやすく、女性の就職定着率や出産後の就業継続率、満足度、自由度が高いといったデータが利用できるのではないかな。

3) 野尻委員報告

- ・科学者委員会男女共同参画分科会の活動状況について報告。大学、学協会へのアンケートについて来年1月ごろにはまとまる予定。

3. 意見交換

- ・長岡技術科学大学Kawaii理科プロジェクトや3DのアンドロイドSayaを用いたキャンペーン、STEMガールズアンバサダー、女性体験（スプニツ子！作品？）など様々な試みもあるが、「女性はカワイイものが好き」、「女性はスカートをはいている」、「理系技術の理想の体現が若い女性」といった固定観念を植え付けるものとならないようにも留意する必要があるだろう。

- ・そのような試みが、自然と男性からの視点になっている場合があり、多くの視点で検討をする必要がある。

- ・女子の母親は子供に危ないことをさせたくないという気持ちが働くことがあり、電気や土木などの仕事の多くが自動化され過去に比べ安全性が極めて高い職種になっていることなども示す必要がある。

4. 今後の予定

- ・加藤委員長の素案をもとに、理工学分野の女性が生き生きと活躍できるような今後の方向性について提言をまとめることが提案された。各分野の取り組み、成果と課題（学会、大学、研究所、企業など）を1ページ程度にまとめる。12月末を目標とする。

- ・学会等の試みについてまとめの表と各分野の取り組み状況に関する記述の原案を加藤委員長から各委員にお送りする。

- ・1月下旬に次回分科会を開催予定、提言案の完成を目標とする。